

第2回あわら市総合振興計画審議会会議録（要旨）

- 1 日 時 令和2年1月13日(水) 14:00～16:30
- 2 場 所 あわら市役所正庁
- 3 議 題 第2次あわら市総合振興計画後期基本計画の策定について
- 4 資 料 ・第2次あわら市総合振興計画後期基本計画（案）
・活力人口算定資料
・今後のスケジュールについて
- 5 出席者 委員：吉田純一（会長）、関法子（副会長）、笹岡一彦、坪田清孝、
長谷川巧、堀江与史朗、赤尾政治、立尾章英（代理）、
北島友嗣、坂井幹夫、久野好夫、石黒豊、山崎長吉郎（代理）、笹原修之
市：佐々木康男（市長）、城戸橋政雄（副市長）小嶋範久（創造戦略部長）
江川嘉康（政策広報課長）、藤田由紀（政策広報課長補佐）
長谷川博祥（政策広報課主査）、西田浩也（政策広報課主査）
渡邊崇久（政策広報課主事）
- 6 欠席者 玉川洋一、坂井 健志、久住健一、前田健二、堂庭信男
- 7 会 議
・会長あいさつ
・市長あいさつ

レジュメに従い、事務局が配付資料に基づき説明を行った。

質疑応答

（1～6章）

委員

活力人口について、定住人口の減少は受け入れて、交流人口の増加を狙うということは理解した。福井県の長期ビジョンと一致している。活力人口算定についてリピーターの定義を過去5年の間に3回程度の利用者としたのはよい。ただ、あわら市民の利用などもカウントされていると考えられるので、数値の精査をお願いしたい。

事務局

県内宿泊者は数値に入っていないため、あわら市民の利用はカウントしていない。

委員

新幹線の開通によって、長距離通勤者（あわら市から新幹線を利用して通勤する人）が出てくる可能性がある。大都市圏からあわら市に移住して、長距離通勤する人などのことも念頭において、計画を考えてはどうか。軽井沢などは、新幹線開通で1.5万人から2.0万人に増加したというデータもある。

事務局

温泉を活かしたサテライトオフィスの推進やワーケーションの促進なども、後期基本計画で追加しており、移住促進による定住人口も増やしていきたいと考えている。

委員

あわらのファンとはどのような人を指すのか。

事務局

観光振興課所管のあわらファンクラブにはあわら市に関する情報を発信、市民協働課所管ふるさとサポーターについてはふるさと納税に関する情報を発信している。SMOUTとは、地域と関わりたい人と移住者を増やしたい地方自治体のマッチングをしているサービスで、あわら市への移住希望者として登録している人を活力人口として算定している。

委員

今後も継続した指標として頂きたい。継続することが大切だと考える。

委員

活力人口について、修学旅行、部活の合宿など、学生の利用もあわら温泉では多いと思うが、その辺りはどう考えているのか。

事務局

福井県への修学旅行の誘致は引き続き実施する。旅行で来た学生はそのまま戻ってしまうことも考えられる。そのため、活力人口の算定には合宿の学生や修学旅行生などはカウントしていないが、今後、特定の学校や指導者との関係性を構築できればカウントすべきだと考えている。

委員

あわら温泉などへの初来訪者の数パーセントでもリピーターになれば非常に大きな数字となり、大きな活力人口増が望めるのではないかと考えている。特に、県外からの日帰り観光客には数パーセントでもリピーターがいると想定される。

事務局

目標10万人に対して、現在約8万人となっているが、残り2万人の増加、さらにその先に伸びしろがあると考えている。初めて来ていただいた人にリピーターになってもらうため、魅力の発信、おもてなしなどを進めることで2万人の上乗せ、さらにその先の活力人口増を目指すという想いがこの中に含まれている、ということで理解していただきたい。

また、福井県の長期ビジョンでも活力人口100万人を謳っており、定義は違うが、県と同様に交流人口と関係人口から算出したという経緯もある。

委員

前期基本計画の指標・目標値で、健康づくりモデル・推進区の評価が悪い理由は何か。

事務局

健康づくりモデル、推進区は行政区に依頼して実施している。現状としてサポーターの成り手がいないため、事業自体が頭打ちとなっている。健康寿命を延ばすためフレイル予防が今後の施

策の柱となっていく。

(7章第1～3節)

事務局 説明

委員

環境活動の団体を増やすという指標はないのか。

事務局

エコ市民会議が中心となって環境活動を実施している。ただ、メンバーの高齢化もあり、人員補充に苦勞している。総合振興計画の策定に合わせて、下位計画である環境基本計画の策定を考えており、環境関連の指標は、そこで改めて詰めていきたい。また、森林についても昨年度にあわら市・坂井市森林整備構想を策定しており、その中で詳細な内容を記載している。

委員

環境について、再生に関する具体的なアクションが記載されていない。どのようなことを考えているのか。

事務局

下位計画となる環境基本計画で詳細に記載する予定。

委員

林業に関する詳細な施策については、昨年度、あわら市・坂井市森林整備構想を策定しており、その中で山の再生、林業の再生など具体的な施策について打ち出しているため、総合振興計画の記載内容としては問題ないと考えている。

委員

文化財については、文化財を選定する基準はあるのか。指定に値する文化財があると思うが、指定されていない史跡があると考ええる。

事務局

教育委員会の文化財保護委員会で審査し、指定している。専門家の調査によって選定されている。あくまで、この計画では現在指定されている一覧を載せているということでご理解いただきたい。

委員

デジタルという単語の記載が少ない。デジタル技術の活用という表記を記載して頂きたい。

事務局

地域社会の分野、情報化の推進に関する部分で記載している。

(7章第4～6節)

事務局 説明

委員

県道の整備促進の中に、北潟湖周遊サイクリングロードの記載を入れてはどうか。

事務局

正式な道路名称として、北潟湖畔自転車道線の記載あり。

委員

有害鳥獣対策の記載に関して、寄せ付けない集落環境の推進に関する事務事業で、家庭の果樹が誘因物になっているため「果樹などの」と追記して頂きたい。また、各実な侵入防止の推進に関する事務事業で、維持管理の前に「点検および」と追記していただきたい。

事務局

関係課と協議の上、記入させていただく。

委員

実質公債費比率が微増しているのはなぜか。

事務局

実質公債費比率や将来負担比率は、新幹線整備の影響で増えていくことが予想されるが、その上で、数値を抑えるという数値になっている。専門用語なので注釈をつける。

委員

廃業した旅館の活用・対策を検討してほしい。

二次交通のアクセスが悪い。このあたりの対策も考えておいてほしい。

事務局

廃業旅館について、所有者が第一義的に処理すべきことで、あわら市も苦慮しているが、あわら温泉の重大な課題だと認識している。今後も、引き続き関係機関との協議を進めていくが、この計画上で記載すべき内容ではないと考えている。二次交通の重要性は市も認識している。都市の分野、公共交通体系の充実で二次交通の充実については記載しているということで理解していただきたい。

委員

工業、商業・サービス業に関する分野について。新規創業支援について、商業だけでなく工業についても記載してほしい。

また、Withコロナの施策として、既存企業の異業種参入への支援なども記載してほしい。

事務局

担当課と協議の上記載する。

委員

観光振興の分野について、活力人口で算定する際、県外宿泊者数から算出しているのであれば、外国人宿泊客よりも県外宿泊客のほうが、重要な指標となるのではと考える。

事務局

宿泊観光客の内訳の記載について、担当課と協議させていただきたい。

委員

林業・水産業に関して、指標・目標値がない。

事務局

適切な指標がなく、苦慮しているところ。個別事業の指標はあるが、それが林業・水産業全体の指標になるのかと考えると難しい。

委員

担い手の農地集積率について、今まで農業に携わっていた人が担い手に任せてしまうということで、農業から離れてしまう、というマイナスの面もある。農業については、地域コミュニティの確立などを目指すのが大きな目標ではないかと考えている。

委員

完成した総合振興計画は、どのように周知されるのか。

事務局

500部ほど製本する。関係者、関係団体にも配付させていただき、市のホームページや図書館でも見ることができる。国会図書館などに収蔵される予定。さらには、広報の4月号で特集記事の掲載やダイジェスト版の配付などを予定している

委員

目次のレイアウトについて、特に主となる第7章の部分は、節立てでなく、さらに下位の項立てにするなど、充実していることをアピールしてはどうか。

事務局

1ページに収まるように検討したい。

委員

都市計画の道路の部分に関して、図や写真を入れることはできないか。

事務局

一度検討させていただくが、道路数が多いため、おそらく記載できない。

・今後のスケジュールについて事務局より説明

その他

・謝礼について

・次回：2/4（木）10時から

（16：30閉会）